

20代女性 検察事務官

志望動機は？

私は、学生時代に、ゼミでの活動や説明会等への参加から検察庁の業務内容を知り、捜査・公判といった他の行政機関では経験できない業務に魅力を感じて、検察事務官を目指すようになりました。

松江地検で勤務してみて

私は、現在、検務部門の事件・令状事務を担当しています。

警察等から送られてきた事件記録を確認して受理手続を行ったり、検察官による捜査を終えた事件の事務処理手続（起訴・不起訴）を行ったりしています。また、勾留状等の令状を裁判所に請求する際の書類の点検や遞付などの事務も行っています。まだ不慣れな業務も多く、扱う書類の内容や手続の一連の流れについて分からないことや、自分では判断が難しい業務に苦労したりすることもあります。上司や先輩方に質問したり、一緒になって調べてもらったりしながら、法律や業務について理解を深めている最中です。日々学ぶことが多く、興味の尽きることはない仕事だと感じています。

受験者の皆さんへ

松江地検は日頃から上司や先輩方が声をかけてくださり、違う部署の方も気軽に話しかけてくださるので、当たり前ですが職員の顔と名前が一致するほど人と人との距離が近く、柔らかい雰囲気働きやすい職場だと思います。官庁はたくさんありますが、検察庁という機関は生活の中であまりなじみがないと思いますし、検察庁の中でも小規模な庁から大規模な庁までありそれぞれに特徴があると思います。就職先について調べていく中で、説明会などを通じて実際に職員と話し、自分に合うと思ったものが松江地検であれば嬉しい限りです。私を含め、県外出身者も多く在籍していますので、島根県内外問わず、気軽に説明会等に来てみてください。

20代男性 検察事務官

志望動機は？

私は、漫画をきっかけに警察関係の仕事に興味を持ちました。就職活動を機に調べていくうちに、警察のさらに先の仕事として検察庁の存在を知りました。検察庁は、犯罪の捜査から公判、そして刑の執行までを担当しており、事件の最初から最後まで携われる点に魅力を感じ志望しました。

松江地検で勤務してみた

入庁前は、刑法や刑事訴訟法といった法律をきちんと勉強してこなかったため、検察庁職員としてやっていけるか大きな不安がありました。

しかし、実際に入庁してみると、先輩方が丁寧に指導してくださるだけでなく、分からないことを質問しやすい環境で働くことができたため、その不安は次第に解消されていきました。

松江地検は小規模庁であり、職員数や扱う事件数は他庁と比べると少ないですが、その分、職員一人ひとりが日頃から周囲と密に相談しながら仕事をしており、疑問点を気軽に聞ける雰囲気や醸成されています。また、部署を超えた連携も密で、組織全体で新人を支えようという温かい雰囲気があります。新規採用者として仕事を始める上で、この環境は非常に助けになりました。

現在、私は副検事の立会事務官として勤務しています。立会事務官の仕事は、様々な方の人生を左右する場面に立ち会う仕事であるため、責任は重大であり、覚えることも多く大変ですが、非常にやりがいのある仕事です。

受験者の皆さんへ

検察庁で働きたい方、少しでも興味がある方は、是非、説明会や官庁訪問にお越しください。